

オーストラリア・クィーンズランド州 大学研修 《令和7年度研修レポート》

大阪府とクィーンズランド州は昭和63年の友好提携以来、青少年や教育分野などにおいて交流を行ってきました。その一環として、平成17年から府立学校の英語科教諭を対象に、クィーンズランド州内の大学が実施する英語指導法研修への参加プログラムを行っています。今年度は1名の先生にご参加いただきました。先生方の研修報告の一部を抜粋・要約してご紹介いたします。

《令和7年度実施内容》

研修期間：令和7年7月22日（火）～8月8日（金）

研修内容：外国語として英語を教える教師のための英語指導法

English & Methodology for TESOL purposes (<https://uqcollege.uq.edu.au/>)

研修先：Union Institute of Language (UIL)

参加者：大阪府立大阪わかば高等学校 ミンハス 千春 教諭

費用：*研修費及び研修期間の宿泊費についてはクィーンズランド州が負担。

・研修費には授業料、教材費、フィールドスタディにかかる交通費を含む。

・宿泊は大学手配によるブリスベン市内でのホームステイで、朝食・夕食費は不要。

*渡航費、旅行傷害保険代、大学通学のための交通費、昼食費等は参加者個人負担。

研修前及び研修後の流れ

（4月）府立学校へ周知・募集 → （5月）選考（作文・面接《日・英》） → （6月）事前連絡会 →

（9月以降）公開授業

《大学でのTESOL※研修について》 ※TESOL：英語を母語としない人に英語を教える英語教授法

- TESOLのメソッドを学ぶだけでなく、実際にC1-C2レベルの教材を使い、自分たちの英語レベルの研鑽授業も行った。
- メソッドや英語を学ぶだけでなく、実際のESL（第二言語としての英語）の授業見学も多く行った。授業見学後には、配布された授業観察シートに基づいて、フィードバックを行った。
- ESLの生徒が実際に受けるオーストラリアについての授業（原住民族の文化、言語、食についての体験や、国立公園、保存地区の訪問等）を受けた。
- 研修最終日には、UILで学ぶために中国から来た生徒に対し、他の研修教師と共に1人あたり30分の個人授業を実施した。事前準備として、教材提出及び教育計画を担当教師に提出した。

《クィーンズランド州の学校訪問》

Edens Landing State School

- 4～6年生のStem（科学、技術、工学、数学を横断的に学ぶ授業）、音楽、算数、英語の授業を見学
- 全教室で生徒の座席は決まっており、スペシャルニーズが必要な生徒には様々なアレンジの座席（背もたれ付きのもの、丸椅子、クッションがおかれた椅子など）が用意されていた。
- 生徒は触ると安心するもの（簡単なおもちゃ）は机に置くことが許可されている。
- 机の上には、名前のカードがラミネートされていて、そこにボードマーカーで自分の学びのゴールを書くことができる。
- 約3分の1の生徒が何かしらの支援が必要としている。支援員は担当する生徒のクラスにいつでも出入りでき、ときどき外に連れ出して、勉強することもできる。
- 授業では、最初にアイスブレイクを行い、タスクが与えられ（簡単な説明含む）、生徒は課題に取り組む。課題は常に4種類ほど用意されており、生徒はどのレベルの課題をするのか自分で決めることができる。決めた課題が少し難しそうであれば、教師が別の課題を勧めることもある。
- 生徒は課題中、教師の助けを求める際、手をあげて待っている。勝手に話したり、質問したりすることはない。

Brisbane Bayside State School

- 英語、日本語、デジタルトレーニング（コーディング）、数学、科学の授業及び火災時の避難訓練を見学
- 教室はタッチ式の鍵がないと外側からは開けられないシステムになっており、生徒がトイレに行く際はその鍵を教教師から借りて行くことになっている。
- かばんは教室内への持ち込み不可。教室の外に棚があり、PC等必要なものだけを教室に持って入る。
- 生徒は自分のPCやタブレットを持ってくるように指示されており、それを学校のWi-Fiに繋いでいる。
- ほとんどの生徒は、授業中のノートをパソコンで入力している。
- 教室は教師一人一人に与えられ、その中のアレンジは教師に任されている。教室内での飲食は禁止されており、授業後、生徒は教室外に退出する。教室以外に生徒がゆっくりできる場所が用意されており、卓球ができたり、バスケットができたり、テーブルや座席もたくさん準備されている。
- 問題行動を起こす生徒には、授業観察用のカードが渡されており、授業参加時に教師に渡し、授業中の様子を教師に書いてもらう。毎授業実施し、一定以上の評価が得られなければ、また指導がある。
- 生徒の学校での記録（学習、問題行動等）は小学校から始まり、公立私立関係なく同じデータベースに登録され、学校はそのデータを確認できるようになっている。このため、生徒の転校、編入、進級時に情報収集する必要がなく、どの生徒に対しても教育に必要な情報が分かるようになっている。本制度はクイーンズランドから始まった制度であり、今ではオーストラリア全土に広がっている。

TAFE

- 日本にはないシステムで、行政が行っている職業訓練校という表現が当てはまる。
- 現地の人が職業を変えるために受講したり、または15歳から受講できるので高校生が受講して高校の単位がもらえ、それが卒業後の進路にも結びつく。費用も非常に安価。コース終了後は就学証明書（Certificate1-5/diploma/bachelorのうち、レベルに応じたもの）がもらえる。受講年齢の上限はない。また、TAFE Englishでは移民向けに英語習得コースも用意されている。最近では留学生が利用し、ある程度のレベルに達したら、TAFEの様々な他のコースに移行することもできるようになった。

《最後に》

『生徒は学習者として尊重され、生徒がいるその場所は守られる』

この言葉は、Edens Landing State Schoolが掲げるモットーである。最初に見学した授業で、生徒が「ありのままの姿」で受け入れられている現状、教員の対応、生徒の姿を見て涙してしまった。どの国でも、生徒を取り巻く環境や生徒の様子は同じだが、その生徒をどのように扱うかは国によって違うと思う。

オーストラリアではownership of learning*について幼少期から教育されており、授業中、教師は様々な課題の選択肢を用意している。学習に参加しにくい生徒に対しては、メインの課題以外に最低でも4つの課題を用意しており、学びに向かいやすい仕組みがある。そして、その生徒が授業中にどのような選択肢をとったとしても、学習者として尊重された扱いを受けている。自分の国、自分の学校を振り返ったときに、生徒をそのようにして扱っているかと言われると、そうではない現状に落胆をしてしまった。

今回の研修では、特に学校訪問で多くのことを学ばせてもらった。今後の授業、また学校運営に生かしていきたい。

※ownership of learning（学びの主体性）：

学習者が自分自身の学びに責任を持ち、積極的に関与する姿勢や能力を指す教育的な考え方

※来年度も本事業を行う場合は、令和8年4月頃にお知らせする予定です。参加については是非ご検討下さい。

《問い合わせ先》

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎37階
大阪府府民文化部都市魅力創造局国際課（クイーンズランド州 教師研修担当）
TEL：06-6210-9312 FAX:06-6210-9316